

厚生・文教常任委員会協議会

- 1 日 時 平成30年11月1日（木）
午後3時38分～午後4時40分
- 2 場 所 第2・第3委員会室
- 3 出席議員 （委員長）鬼頭博和、（副委員長）鈴木麻住、
木村冬樹、堀 巖、宮川 隆、関戸郁文、伊藤隆信
- 4 事務局出席者 議会事務局長 隅田昌輝 、議会事務局統括主査 寺澤 顕
- 5 委員長あいさつ
- 6 協議事項

（1）委員会行政視察先の報告について

①木村委員：資料に基づき国立市行政視察報告

鬼頭委員長：虐待や女性の進出、福祉の問題もあり、幅広い取扱いではあるが、所管事項としての委員会代表質問としては難しいと考える。

木村委員：委員長以外の委員が一般質問として取り扱っても良い。

鬼頭委員長：視察報告には十分な内容であるかどうか。

他の委員：了承。

②関戸委員：資料に基づき府中市行政視察報告

宮川委員：岩倉市とのベース比較が難しいと感じた。将来に向けて研究することは良い。

木村委員：東京都内と中部圏の人口推移の比較、公立私立の役割が大きく違う。

私立の保育園や幼稚園がかなりの数で、公立が受け皿となる岩倉市との比較が難しい。ただし、子育て支援アプリとたまたまこ（冊子）作成については岩倉市でも可能性を感じた。関戸委員からの報告のとおり、この2点に絞った委員会代表質問としてどうかと考える。

堀委員：子育てタウンアプリ上、予防接種にリンクしているという表現は、実際にリンクしていたか。

関戸委員：ソフトの中にはないが、クリックしてそちらの頁へアクセスするということである。

木村委員：近隣市で数が伸びていないと報道されていた。

宮川委員：テレビ・ラジオから情報を得る時代からインターネットを通じて情報を取得する時代に2006年頃に切り替わったと言われている。子育て世代のアプリに対する情報源としての役割は大きい。これらの子育て支援に繋げる重要性は委員間でも意見は一致していると考ええる。予算的にも莫大なものでもない。

鈴木委員：アプリは作ってもその都度の更新が必要となる。手間もかかるが誰が

行っていくのか。

関戸委員：会社が行っているようである。行政が更新要望を出して更新を会社が行っているようだ。年間50万円の支払いでこの会社がどこまで実施しているか。

③鈴木副委員長：資料に基づき荒川区行政視察報告

木村委員：都市公園内に建設している施設を視察したのだが、現在は国家戦略特区でなくてもできるとのことであった。また児童数が減少している岩倉市は学校内でクラブを運営するという方向性で、視察で分かったこととして、学童クラブが非常に活発であるということ。ここは見習うべきところと感じた。岩倉市は行政主導で実施されているが、荒川区のNPOの運営力を見習って、岩倉市の事業所を育成出来ないかという提案もどうかと考える。

鬼頭委員長：外部委託で活発に運営することを提案するというのも良いと考える。

堀委員：岩倉市放課後児童クラブについて各議員が共通してどこまで理解しているか。

鈴木副委員長：スタッフが充実していたが環境や条件が違いすぎると感じた。運営が成熟している。

木村委員：放課後子ども教室の拡充をテーマとしてはどうか。

鬼頭委員長：代表質問にはボリューム的にどうか。

④鬼頭委員長：資料に基づき町田市行政視察報告

堀委員：所感について、「保育園送迎ステーションの利用者数を増やすためには」とあるが、待機児童を無くすことが目的であって、利用者数を増やすことが目的ではないと考える。現在の利用者で、仮に利用できなくなると想定したとき、待機児童にどの程度なってしまうのか。そこが重要な点と考える。市民説明会で待機児童を無くすことが目的だと確認したが、利便性を高めることを前面に出した説明であったと理解する。利用者を増やすためと言ってしまっても良いのかと感じた。

木村委員：町田市と岩倉市の違いが大きいことは良くわかった。仮に無くなったとして、岩倉市の待機児童がいきには増えるとは考えづらい。待機児童対策と言われているが、町田市のような市域の自治体、また駅付近の環境など、岩倉市とは状況が大きく違うと感じた。これを質問していく難しさ、目的の違いを感じる。岩倉市の事業は駅近くに住んでいる人の利便性のためだけになっている。

宮川委員：町田市はwinwinの関係。施設建設の土地がなく、町田駅利用者が多く、待機児童も多い。町田市とは状況が違い、何を送迎ステーションに求めるのか、明確ではない。

鬼頭委員長：現在は岩倉駅を利用する人が送迎ステーションを利用しているだけである。多くの市民が利用できる制度にするためには岩倉駅のみではニーズに乏しい。

木村委員：議員の考え方も白紙に戻すべきという意見もあれば、もっと拡充をと
いう意見もある。議員の方向性に違いがあるので、代表質問としては相応しい
とは言えない。全員の合意とは言えない。

鈴木副委員長：追及は必要と考える。市民の間で無駄という意見も聞かれる。

宮川委員：運営方法を中途半端にすべきでない。

鈴木副委員長：そもそも必要な事業なのかは考えるべき。

堀委員：代表質問は建設的なものが良い。

木村委員：町田市と岩倉市の違いを述べて今後はどうするのかというところで
留めておく。

宮川委員：仮に利用者が限定されたとしても、そこに需要があって、新しい施設
を建設するくらいなら、送迎ステーションで平準化するという事も考えられ
る。しかし岩倉市の場合はそうではなく、行政はコストを費やし、利用する側
のニーズはそこまでではない。

木村委員：議員の中には白紙にするべきという意見と利用者を増やすためには
この手法はどうかと考える議員もある中で、市はどのように考えるかという質
問の仕方ぐらいではないか。

各委員：聞くだけの質問に終始してしまう。

鬼頭委員長：出来れば提案型の質問内容としたい。

各委員：この送迎ステーションに関する事は質問から外すべき。

木村委員：9月定例会の決算審議で行った民生費や衛生費、また介護保険の特別
会計といった所管事項の中から焦点となったものを精査して、委員間で合意で
きるものを代表質問として取り上げる手法が良い。11月であるため、早めに
委員会を開催して個々に精査したものを持ち寄って質問の方向性を定めたい。
次回は委員会として開催し、方向性を決定してはどうか。今日からおよそ1週
間で委員個々が精査して正副委員長に相談する流れはどうか。

各委員：賛成。

鬼頭委員長：行政視察調査事項に関しては、府中市及び荒川区の事例を取り上げ
ながら質問するとし、他は9月定例会の決算審議において焦点となったものを
委員会代表質問として取り上げ、中身の厚い質問としていきたい。

伊藤委員：今回から必ず代表質問を行うのか。

鬼頭委員長：必ずしもというものではない。

宮川委員：例えば荒川区の制度は良いものだし、岩倉市においても同様の事業は
実施している。しかし将来を考えたときに、まだ学ぶべきことはあるという視

点に立って、長期的な展望、財政状況を勘案し提案として質問するのは良いのではないか。今日明日という話ではない。

鬼頭委員長：放課後子ども教室の実態調査をするのか。

宮川委員：委員会として視察するもよし、実態調査するもよしと考える。

木村委員：執行機関から資料をいただいても良い。

宮川委員：それを見て視察すれば活字で無いものがある。

鬼頭委員長：執行機関から資料をいただき、今月中に視察するという事で良いか。

鈴木副委員長：通告期限はいつになるか。

各委員：一般質問と同様である。

木村委員：日程的に視察は難しいので、執行機関からいただく資料で質問を構築していくしかないと考える。通告期限に間に合わないといけないので、今後のスケジュールをどうするか。

各委員：日程調整。

鬼頭委員長：次回は常任委員会として、11月16日（金）議会基本条例推進協議会終了後開催とする。来週中に各委員はテーマを絞り、正副委員長へ報告する。

木村委員：9月定例会で文化財の質問を何名かの議員が行った。保管場所の問題もある。小学校の空き教室を利用した展示方法など意見が一致したところと認識している。このような件であと一つか二つ挙げて質問できればと考える。

（2）委員会代表質問について

（1）委員会行政視察先の報告についての協議内容を含む。

（3）その他

特になし。

7 その他

特になし。